

【作品集】

鉄の彫刻作品

—線による空間ドローイング—

難波 章人

Iron Sculptures

—The spatial drawing by line—

by

NAMBA Akito

作品題名

1. 遊ぶ人
2. 構成～みなも～
3. 時のカタチ
4. みなも
5. 線によるドローイング

作品手法

ガス(酸素・アセチレン)溶接にて鉄の切断、曲げ、立体化を行っている。
2009年は線による空間ドローイングをテーマとして制作を行った。

発表

Small Size Collection II「物語る」	2009年3月	ギャラリーおいし(福岡市)
九州二紀展	2009年7月	福岡県立美術館(福岡市)
「表現郷 2009」	2009年9月	ギャラリーラブー亭(行橋市)
「アートと歴史の出会いまち」 —テラマチあります—	2009年8,9月	竹田創生館(竹田市寺町)
第63回二紀展	2009年10月	国立新美術館(東京都)

受理日 平成21年10月30日

純真短期大学こども学科 助教



1. 遊ぶ人

シリーズ「遊ぶ人」は、手のひらサイズの作品群である。

左の作品は丸い輪の上でバランスを取っている人間像である。技法はガス溶接で、人体の部分は鉄線を溶かしながら肉付け・モデリングを行っている。輪の中心部分は設置面より少し浮かせている。作品に当たる光から作り出される輪の影が時の流れと共に表情をゆらゆらと変えてゆく。

サイズ：12×10×10 (cm)

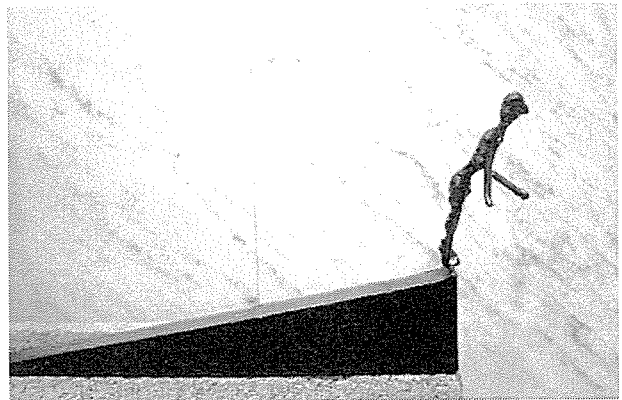
素材：鉄, さび止めラッカー

発表：Small Size Collection II「物語る」

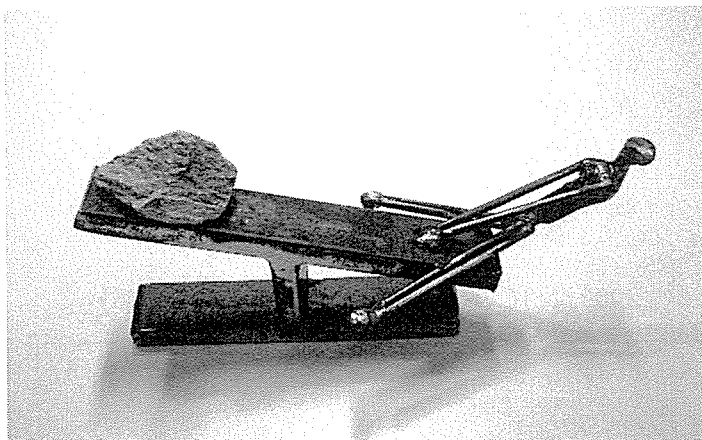
2009年3月

ギャラリーおいし (福岡市)

右の作品は坂道を登りきった人物像である。具体的な場面設定の中で時間と緊張感を取り入れることができると考えた。坂道の部分は鉄の塊であるため、重量を知覚できる。人間の目は物体が無垢であるかどうかを識別できる能力がある。このことは、経験的判断もあるのだが、視覚よりも五感の力に関係があるのかもしれない。



サイズ：12×25×6 (cm)



シーソーの上で石と格闘している人間像である。鉄の錆びの部分と磨いた部分を作り、時の経過を視覚化させた。彫刻とは作品に時間を封じ込める人間の手わざとも言われるが、この作品では、我々の記憶の中に眠っている心情を形に置き換えることを試みた。

サイズ：10×15×8 (cm)



2. 構成～みなも～

この作品は、水面の模様を鉄線で形取り、構成している。鉄線は径 10 mm の異形鉄筋を使用した。主に建築現場でコンクリートの中に埋め込まれ使用される素材であるが、この作品では鉄筋を空間内にむき出しのまま使うことをコンセプトとした。そして、この鉄筋で輪（水面）を描き、丸い形の集合から直方体を作ることで彫刻の量塊や重量というものを逆に引き出せるのではないかと考えた。また、全体の構成では、鉄の輪の直方体部分を鉄枠や立方体の石と組み合わせて設置面から浮かせ、それぞれのパーツの重量、密度の空間的関係を視覚化させながら演出した。

サイズ：45×50×30 (cm)

素 材：鉄, 石, さび止めラッカー

発 表：九州二紀展 2009年7月 福岡県立美術館（福岡市）



3. 時のカタチ

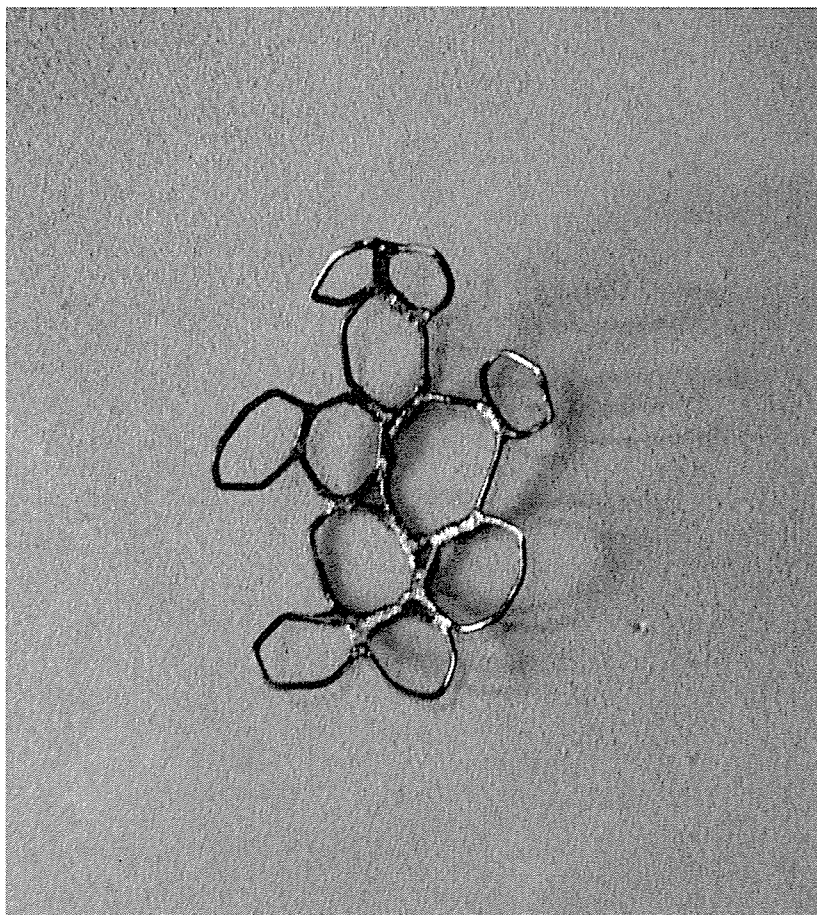
福岡県の北九州市、行橋市、京都郡みやこ町にて行われた企画展「表現郷」に出品した作品である。この2つの作品は、番線と呼ばれる鉄線を集積してボリュームを与えている。生命の骨や肉片をイメージさせるように番線をガス溶接にて溶かしながらモデリングを行った。出来た作品は時間の流れとともに消滅した後、残されたカタチである。「生命の存続の危機」という我々が直面している現代の様々な問題について表現を通して考えていかなければならない。

サイズ：30×15×10 (cm) / 27×13×10 (cm)

素材：鉄, さび止めラッカー

発表：企画展「表現郷 2009」 2009年8月

ギャラリーラブー亭 (行橋市)



4. みなも

歴史の道アートイノベーション実験「アートと歴史の会うまち《テラマチ》あります」と題されたアートプロジェクトへの参加。そのプロジェクトの1つでもある「アーティストと共に歴史を刻む、テラマチミュージアムプロジェクト」(街中に様々な作品とまちの色を設置し、探訪する展覧会)への作品提供・出品参加である。

作品は復元された武家屋敷<竹田創生館>、及び但馬屋新屋(アラヤサーヤ)に展示した。細い鉄線の作品を砂壁にレリーフとして設置した。和の間の中で、作品には自然光が注ぎ、かすかな影を浮かばせている。城下町竹田・寺町を訪れた人々に生命の断片、記憶の増殖といったものをイメージさせ、共に新たな時間を刻むことができると考えた。

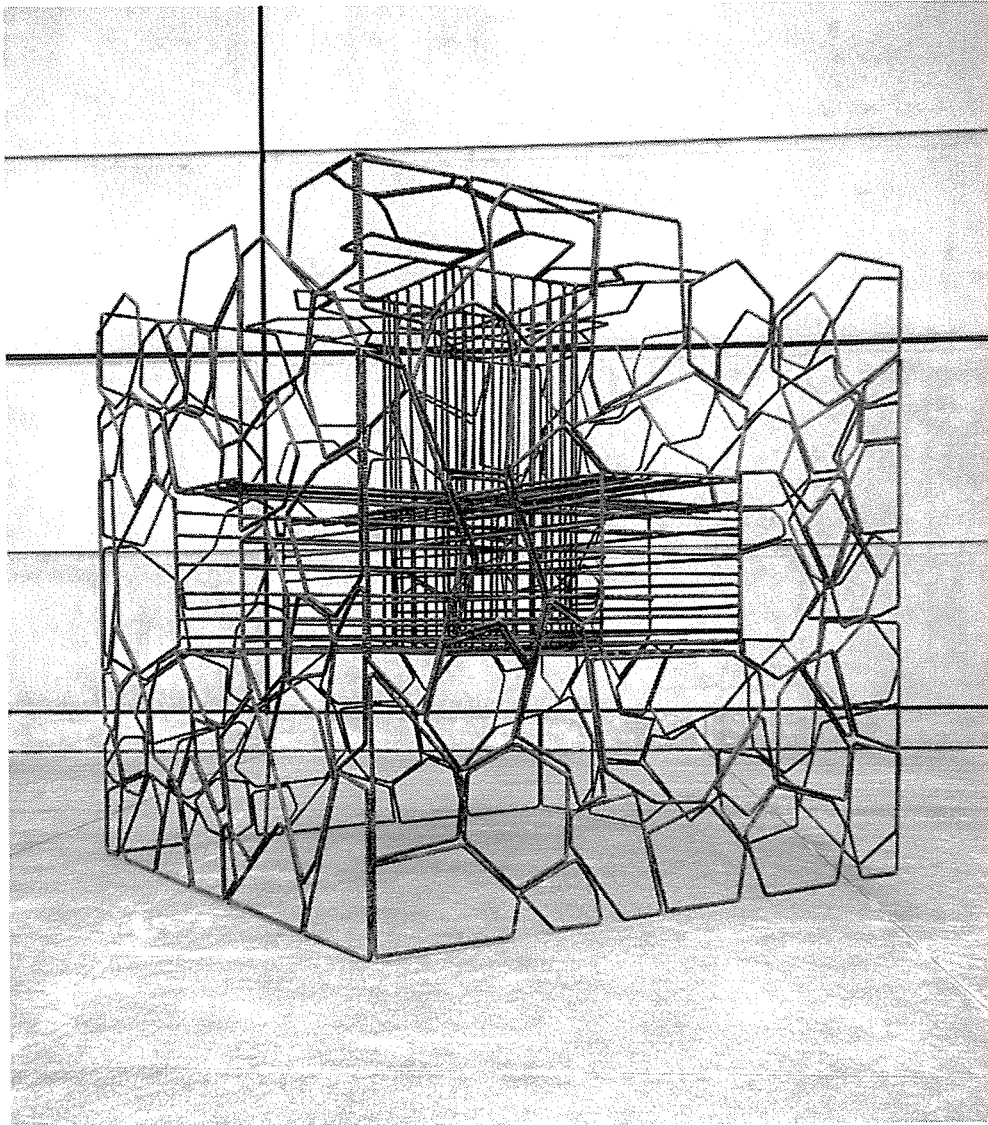
サイズ：30×20×6 (cm)

素材：鉄, さび止めラッカー, 塗料

発表：「アートと歴史の会うまち—テラマチあります—」

2009年8, 9月

竹田創生館, 但馬屋新屋[アラヤサーヤ] (竹田市寺町)



4. 線によるドローイング

この作品の外のフォルムは有機的な丸形や五角形を組み合わせる正方形を作り、それらの面を用いて150センチの立方体を構成している。内のフォルムは直線の鉄線を外の面から対面へ渡すことで、中心にもう1つの正立方体が浮かび上がって見えるように設計した。外と内のそれぞれのフォルムが人間の目の中で交差することで、新たな視覚的効果を持った彫刻ができるのではないかと考えた。

サイズ：150×150×150 (cm)

素材：鉄（錆び付け）

発表：第63回二紀展 2009年10月

国立新美術館（東京都）